

令和4年度 国立近現代建築資料館 活動報告

Annual Activity Report of NAMA, 2022 (Reiwa 4) fiscal year

文化庁国立近現代建築資料館

I. 資料の調査・保管等

(カッコ番号は各資料のフォンド番号)

1. 各資料の作業

各資料について、次のとおり調査から保管までの業務(資料調査、資料受入、契約解約、返却、資料整理・研究、目録作成、デジタル撮影、燻蒸、修理、資料利用等)を行った。

(1) 坂倉準三建築設計資料

■ 概要

資料整理については、昨年度からの継続作業として、これまで作成した目録データの公開に向けて順次整備、書式の変更等作業を行った。

■ 資料整理・目録作成

寄贈資料の内容を反映した階層構造に従い、公開用目録の作成手順を更新し、写真資料の目録整備及びデジタル化を進めた。

(2) 丹下都市建築設計所蔵マイクロフィルム

■ 資料調査

資料閲覧にともない、目録と画像データの不一致の確認、閲覧における被覆の必要性の確認(日南文化センター、墨会館等)を行った。令和5年度には特例による画像の大量提供のために、同様の作業を継続して進める予定である。

(3) 藤森照信旧蔵東京大学生産技術研究所建築史研究資料

■ 概要

借用中の資料について収蔵に向け概要の調査を行った。

■ 資料整理・目録作成

資料についてファイル単位の目録を作成し、資料作成者の調査と分類を行った。これをもとに令和5年度以降は収蔵に向けた資料群の整理を行う予定である。

(7) 村田豊建築設計資料

■ デジタル化

図面資料ファイル1~48について資料番号と画像番

号の対応表を作成した。

(8) 吉阪隆正+U研究室建築設計資料

■ 資料整理・目録作成

前年度に不備が判明した2ファイル分のアイテムレベルの目録を追加作成した。

■ 保存管理

東京都現代美術館「吉阪隆正展 ひげから地球へ、パノラミル」展貸し出し資料の返却を受け、点検と所定アドレスへの保管を行った。

■ 公開

建築文化に関する検討会議第1回(2023年3月9日)の開催に際し、「近藤邸(ヴィラ・クウクウ)」の一部資料の限定公開を実施した。

(10) 大高正人建築設計資料

■ 収集(第2回・第3回寄贈契約分)

昨年11月に寄付申し込みを受領した。第2回・第3回寄贈契約に向けて、準備を進めている。

■ 資料整理・目録作成(=第1回寄贈契約済み分)

約60ファイルのアイテムレベルの目録を作成した。次年度に向けて一部図面資料のフラットニングと採番を行った。

■ 保存管理

前年度のデジタル化作業を経て返却を受けた資料を所定アドレスに保管した。目録作成の進んだ一部図面のアドレスを変更し、調査作業スペースの効率化を図った。

(13) 渡辺仁資料

■ 概要

適切な環境で資料を保管し、資料利用に込めている。

(15) 菊竹清訓建築設計資料

■ 概要

令和2年度に借用した1970年代前半の図面資料について寄贈手続きに向けた資料の確認作業を継続し、完

了した。

■ 委託事業等

当該資料の整理をより効率的かつ適切に行うため、1970年代図面資料の整理を、斎藤信吾建築設計事務所へ委託した。

さらに、今後の菊竹清訓資料の収集計画策定のため、現状調査業務を早稲田大学理工学術院古谷誠章研究室に委託した。

■ 資料整理

寄贈済み資料については、閲覧等利用の申請があったものから目録を作成し、デジタル化作業を実施した。借用資料については、令和3年度に引き続きフラットニング及び資料番号の付与を中心に整理作業を進め、すべての資料についてこれを完了した。

■ 菊竹清訓建築設計資料のアーカイブズ構築のためのアドバイザー・コミッティー

3月23日にアドバイザー・コミッティーを対面（一部 Zoom）で開催した。菊竹資料の総量やこれまでの資料整理の状況、今年度の資料整理内容と資料の活用状況の報告を行い、今後の菊竹資料の継承に向けた意見交換を行った。

出席者：スミス睦子（情報建築）、菊竹雪・菊竹三訓（菊竹家）、原田鎮郎・塚本二郎・内藤廣・原田敬美・伊藤豊雄・仙田満*（菊竹事務所元所員）、古谷誠章・小岩正樹・池田理哲（早稲田大学）、斎藤信吾（東京理科大学・菊竹資料委託作業総括）、松隈洋*（京都工芸繊維大学）、戸田讓*（昭和女子大学）、吉野孝行・大宮司勝弘・高瀬道乃（国立近現代建築資料館）

*：オンライン参加

■ デジタル化

寄贈された資料のうち、約2,000点の図面資料の基本画像（400dpi）と閲覧用画像（200dpi）を作成した。

(16) 川添登資料

■ 資料確認・整理

贈与契約に向けて資料の整理、数量確定、概要目録作成等を進めた。

(17) こどもの国建築関係資料

■ 資料整理・目録作成・デジタル化

本年度の展示企画にあわせ、本資料群の中でも特に図面情報を含む資料について抽出し、アイテム目録の作成とデジタル化を行った。当該資料はすべて複写資料のため、同一資料の複写なのかについても情報を整理し、目録に記載を行った。

(19) 平田重雄資料

■ 資料整理・目録作成

寄贈契約に含まれない書誌についての点検及び館内図書登録を完了した。

■ 保存管理

図面、写真等の資料の点検と所在確認を行った。

(20) 岸田日出刀資料

■ 資料整理・目録作成

図面資料（20-1-1～81）と、個人資料（20-2-1～82）からなる。目録未作成であった個人資料のうち1ファイルのアイテム目録を追加作成した。

(23) 高橋訃一・第一工房資料

■ 資料調査

第3期の贈与契約に向け、アイテム番号の付与及びファイル目録作成を進めた。

■ 資料整理・目録作成

第1期第2期贈与契約分資料について、アイテム目録の作成、デジタル化を進めた。

■ 保存・保管

資料の形態、大きさを考慮し、包材及び容器に入れ替えた。

(24) 前川國男建築設計資料

■ 資料整理・デジタル化

閲覧希望があった図面資料及び写真資料について、目録の作成及びデジタル化を行った。

(25) 原広司+アトリエ・ファイ建築設計資料

■ 資料調査・目録作成

目録作成を6,700件（図面資料）+2,600件（スケッチ資料）程度進めた。デジタル化は4,200件程度行った。令和4年12月からの原広司展に関する資料を優先的に作業対象とした。

■ 第2次寄贈に向けた手続き

令和5年度中の第2回寄贈契約に向けて、主にスケッチ資料の資料調査及び員数確認を行い、員数確認はほぼ完了した。

(26) シュパイデル旧蔵ブルーノ・タウト関連資料

■ 資料調査

贈与契約に向け、アイテム番号の付与及びファイル目録作成を進めた。

■ 資料整理・目録作成

アイテム目録の作成、デジタル化を進めた。

■ 保存・保管

資料の形態、大きさを考慮し、包材及び容器に入れ替えた。

(27) ヴァスマート社旧蔵吉田鉄郎関連資料

■ 資料調査・目録作成

アイテム目録作成とりまとめ作業を進めた。また、一部資料のデジタル化を進めた。

(28) 安藤忠雄初期建築資料

■ 資料調査

第1期の贈与契約に向け、アイテム番号の付与及びファイル目録作成を進めた。

■ 資料整理・目録作成

ファイル目録・アイテム目録の作成、デジタル化を進めた。

■ 保存・保管

資料の形態、大きさを考慮し、包材及び容器に入れ替えた。

■ 資料搬送

令和4年3月に第1期寄贈分の当館への搬送を完了した。

■ 寄贈契約

9月10日に第1回寄贈契約を締結した。引きつづき公開準備を行う。

(29) 篠井家旧蔵吉田鉄郎城端郵便局資料

■ 資料調査

贈与契約に向け、ファイル目録・アイテム目録を作成した。

■ 寄贈契約

8月10日に寄贈契約を締結した。引きつづき公開準備を行う。

(30) 堀口捨己資料

■ 資料運搬

令和4年3月に東京工業大学及び明治大学に所在する資料について調査を行い、当館への借用、移送を行った。

■ 資料調査・目録作成

堀口アーカイブズの研究成果をもとに、資料のファイル及びアイテム単位の目録の概要を作成した。寄贈契約に向け、これをもとに令和5年度に員数確認を行う予定である。

(32) 大谷幸夫建築設計資料

■ 資料の概要調査

資料の内容及び数量の調査・確認をした。大谷研究室及び施主の希望により一部作品は移送から除外された。

■ 資料受入れに向けた手続き

設計事務所退去という緊急性を鑑み、令和5年2月開催の第21回運営委員会メール審議で資料の詳細を説明し、全会一致で収集相当の承認を得た。これを受けて資料を借用し、令和5年3月23・24日に資料館に移送した。今後収蔵契約に向けて整理作業を進める。

■ 資料調査

寄贈契約に向けて、まず資料の全体像を把握することと、資料全体の体積を減らすことを目的として簡易目録の作成を行っており、図面ファイル資料に関してはおおむね完了した。

2. 新規受入資料の概要

(26) シュバイデル旧蔵ブルーノ・タウト関連資料

ブルーノ・タウト(1880–1938)は1933年5月3日に来日、各地を歴訪し、桂離宮をはじめとした日本建築を高く評価し、日本建築や日本の文化に関する書籍を著すとともに、旧日向氏別邸のインテリアデザインなどの活動を行った。1934年からは高崎に移住し、井上工業研究所の顧問として工芸製品のデザイン、制作指導を行っている。

マンフレッド・シュバイデル氏から寄贈された当資料は、タウトが高崎に在住した時の活動に関わるものである。タウトは工芸製品のスケッチを描き、水原徳言氏ら井上工業研究所の日本人スタッフが実施制作のために図面を書き起こした。図面にはタウトのサインや印鑑があるものもある。1986年に庄子晃子氏がこれらの図面239点の写真を撮影し、リストを作成した。1986–88年頃、シュバイデル氏は水原氏より、一部の青焼図面126枚と、前述の庄子氏作成の写真の紙焼とそのリストを譲り受けた。シュバイデル氏が譲り受けた青図126枚は水原氏所有の図面の一部であり、庄子氏が作成した写真紙焼資料239枚及びそのリストは、水原氏所有図面の全貌を示している。また、タウトがこれらの家具・日用品をデザインした折の日記・忘備録のコピー及びそれを水原徳言氏の兄・徳恒氏が日本語訳したもののコピー、シュバイデル氏作成のドイツ語目録4冊も併せて寄贈を受けている。

(28) 安藤忠雄初期建築資料

安藤忠雄(1941-)は、国内では1979年の日本建築学会賞をはじめとする数多くの受賞歴を持ち、2010年には文化勲章を受章、海外では1885年のアルヴァ・アアルト賞、1995年のプリツカー賞、2005年のUIAゴールドメダルの受賞など、国内外で高い評価を得ている建築家である。

収集対象資料の全体は、安藤忠雄設計の作品群の図面から構成され、1990年代までの安藤忠雄作品の包括的資料となっている。本年度は、第1期として、住吉の長屋、水の教会などを含む初期作品、31ファイル1,364点の寄贈を受けた。

(29) 篠井家旧蔵吉田鉄郎城端郵便局資料

吉田鉄郎(1894-1956)は、富山県東礪波郡福野町に生まれ、大正8(1919)年に東京帝国大学を卒業後、通信省営繕課に入省、昭和20(1945)年の退職まで多くの通信省の建築を設計した。代表作に東京中央郵便局、大阪中央郵便局などがある。

当資料は、城端郵便局第四代局長篠井多喜雄が同郷である吉田鉄郎に設計を依頼し、その関連資料が篠井家に伝承されたものである。城端郵便局に関する吉田鉄郎の設計資料は、当館が吉田鉄郎資料として保有する(青図が当該資料に含まれる)原図1枚を除いて、当該資料以外に発見されていなかった。篠井家には、現存時の同郵便局に関する写真や手紙が伝承されている。写真については、寄贈者の意向により現物は寄贈対象とはならなかったが、参考資料として同資料のデジタルデータを当館と情報共有し、公開する許可を得ている。したがって、総量としては青焼図面5点、吉田鉄郎からの手紙(指示)、写真(データ)の寄贈を受けた。

(31) 樋口清旧蔵吉田鉄郎蔵書LE CORBUSIER-SAUGNIER, *Ver une architecture* (初版)

本書は、東京中央郵便局などの設計で知られる吉田鉄郎の蔵書を、樋口清が譲り受けたものである。吉田鉄郎に関する資料は、吉田鉄郎が当館の収集方針にかなう建築家であることから受け入れ相当と判断された。

加えて本書は日本の近代建築の展開に大きな影響を与えたル・コルビュジエの著作「*Vers une architecture*」の初版としても大変貴重な資料である。本書の初版は出版期間が短く刊行数が少ないだけでなく、初版出版後、第2版出版に際して多くの変更が加えられていることから、その間のル・コルビュジエの思想を知る上でも貴重な資料となる。

樋口清氏は2018年に逝去され、散逸の恐れがあり、当館が所蔵することとした。

II. 展示・教育普及

1. 展覧会

令和4年度は、「『こどもの国』のデザイン——自然・未来・メタボリズム建築 [併設] 新規収蔵資料紹介」展、並びに「原広司 建築に何が可能か—有孔体と浮遊の思想の55年—」展を開催した。並行して、令和5年度の10周年を記念する展覧会の企画立案を行い、運営委員会及び企画小委員会の了承を得た。

(1)「こどもの国」のデザイン

——自然・未来・メタボリズム建築

[併設] 新規収蔵資料紹介

■ 開催概要

タイトル

「こどもの国」のデザイン——自然・未来・メタボリズム建築

Kodomonokuni Children's Land-Nature, Future and Metabolism Architecture

趣旨

「こどもの国」(横浜市青葉区)は、1965年5月5日に開園した児童厚生施設。多摩丘陵に広がる約100haの自然豊かな土地を生かして子供の遊び場をつくるという発想は、その後の類似施設の先駆的モデルとなった。「こどもの国」の設計者の多くは、メタボリズム(新陳代謝という意味)という建築家・芸術家グループの結成にかかわり、生物が新陳代謝するように成長するという建築思想を掲げ未来都市像を発展させていった。こどもの国は、その後の日本の建築界を担うことになる建築家たちが若々しい発想力を発揮し、子供の未来のための施設デザインに取り組んだ場所である。

本展では、当資料館が近年収蔵した資料群7件を紹介展示するコーナーを設けて、収蔵資料の公開も行った。

[主催] 文化庁

[協力] 公益財団法人東京都公園協会

[会場] 文化庁国立近現代建築資料館

(東京都文京区湯島4-6-15湯島地方合同庁舎内)

[会期] 2022年6月21日(火)~8月28日(日)

10:00-16:30

休館日: 毎週月曜日(但し、7月18日[月・祝]は開館し、7月19日[火]休館)

■ 会場構成

1) 「こどもの国」のデザイン

浅田孝が計画した当時のゾーニングに準じて作品展示を行った。

【A 地区】

皇太子記念館 | 浅田孝 1972

A 地区児童遊園・児童館 | イサム・ノグチ、大谷幸夫 1968

【B 地区】

自然プール | 浅田孝 1964

セントラルロッジ | 黒川紀章 1965

アンデルセン記念の家 | 黒川紀章 1965

【C 地区】

フラワーシェルター | 黒川紀章 1964

修学旅行宿舎 | 大高正人 1964

【D 地区】

交通訓練センター | 鈴木彰 1965

林間学校 | 菊竹清訓 1967

【アンビルト計画】

野外劇場 | 浅田孝 1962

キャンプ場 | —

公衆便所 | 黒川紀章 1966

会場内では現状の様子を挟んだスライドショー、ロビーでは登場する建築家の他の代表作を合わせて紹介する動画を放映。上記資料のほか、収蔵資料のパンフレットやこどもの国が特集された本などを展示した。

2) 併設：新規収蔵資料紹介

- ・岸田日出刀建築資料
- ・駒田知彦旧蔵坂倉準三関連資料
- ・村田豊建築設計資料
- ・木村俊彦構造設計資料
- ・角田栄資料
- ・ヴァスマート社旧蔵吉田鉄郎著作資料
- ・篠井家旧蔵吉田鉄郎城端郵便局資料

■ メディア掲載

新聞

- ・毎日新聞 2022年6月30日 夕刊
- ・東京新聞 2022年7月8日

雑誌

- ・ディテール 2022年7月号 PR3
- ・日経アーキテクチュア 2022年8月11日号 p.96
- ・新建築 住宅特集 2022年8月号 p.151
- ・建築技術 2022年9月号 p.183

・ブレーン 2022年9月号 p.123

WEB

BUNGA NET Fashion Press JDN KENCHIKU
Tokyo Art Beat (前編 後編) 新建築 ONLINE
THE HERITAGE TIMES YOKOHAMA KANAGAWA
(前編 後編)

■ グラフィックサイン図・フライヤー・図録のデザイン 体裁・部数：ポスター /B2縦 500部

チラシ /A4縦両面 30,000部

ハガキ /長3縦 1,000部

図録 /B5横 3,000部

■ 来場者数

日数	正門	岩崎邸	計
60日	38日 / 60日	60日 / 60日	—
—	808人	2755人	3563人
—	23%	77%	—

(2) 原広司 建築に何が可能か

—有孔体と浮遊の思想の55年—

■ 開催概要

タイトル

原広司 建築に何が可能か —有孔体と浮遊の思想の55年—

What is Possible in Architecture? 55years of Ideas
About Yukotai(Porous Bodies) and Floating

趣旨

建築家・原広司は、東京大学で28年に渡り教鞭をとりながら、個人住宅から美術館、教育施設、駅舎、超高層建築、ドーム建築などの大規模建築に至るまで幅広い建築作品を創り出してきた。また原による数学、哲学、芸術をはじめとした多様な視点からの建築に関する思索は、日本の現代建築の発展を大きく牽引した。1967年の著書『建築に何が可能か』における「有孔体」と「浮遊」の思想に始まる原の思想は、その後、反射性住居、多層構造、機能から様相へ、集落の教え、離散的空間など多彩な建築概念に発展し、現代建築に計り知れない影響を与えた。

本展覧会では、近年、原広司+アトリエ・ファイ建築研究所から国立近現代建築資料館に寄贈された建築資料群の中から、「有孔体」と「浮遊」というテーマの展開を示す図面とスケッチを、年代を追いながら展示した。原の作品の根源であるこのふたつの発想が、住宅から

大規模建築、都市に至るまで、いかに具現化し発展したかを「思想：オブジェ、イメージ図、著作物」、「構想：スケッチ」、「実想：設計図面」という3つの「想」による展示を通して構成した。

[主催] 文化庁

[協力] 公益財団法人東京都公園協会

[会場] 文化庁国立近現代建築資料館

(東京都文京区湯島4-6-15湯島地方合同庁舎内)

[会期] 2022年12月13日(火)～2023年3月5日(日)

10:00～16:30

休館日：毎週月曜日 *ただし1月9日(月・祝)

は開館し1月10日(火)は休館(2022年12月26

日(月)～2022年1月4日(水)は年末年始休館)

■ 会場構成

1. 有孔体と浮遊の思想の誕生 1960年代
伊藤邸(1967)、慶松幼稚園(1967)
2. 反射性住居と世界の集落調査 1970年代
原邸(1974)、ニラム邸(1978)、工藤山荘(1976)
3. 公共建築と様相論 1980年代
田崎美術館(1986)、飯田市美術博物館(1988)、ヤマトインターナショナル(1986)、那覇市立城西小学校(1987)、内子町立大瀬中学校(1992)
4. 巨大建築での有孔体と浮遊の実現 1990年代
新梅田シティ・スカイビル(1993)、JR京都駅ビル(1997)、宮城県図書館(1998)、札幌ドーム(2001)
- X. コンペティションとイマジナリー
500M×500M×500M(1992)、ピエモンテ州新庁舎設計競技(2000)、実験住宅モンテビデオ(2003)

現物展示しないスケッチ及び図面約100点をスライドショー形式で展示した。

アトリエ・ファイ(原広司の事務所)新規作成の模型を展示：2021年に取り壊された伊藤邸(1967)の壁面に飾られていた有孔体レリーフを中心に据え、原広司の代表作の主要空間や建築概念を抽出・混在させて、混成系の光景を創出したコンセプト・モデルを原自らが作成し、それを展示した。

原広司オーラルヒストリー：動画映像により原広司本人に対する聞き取りを行った映像コンテンツを、展示室及びロビーの2か所で展示した。

ロビーにおける柱展示：ロビーでは一部作品の写真を柱に展示し、あわせて平易な言葉で原の思想を紹介することで、原広司をはじめ知る観覧者に対して

理解を促進させることを目指した。

ガイドツアー：原の建築理念や各作品の位置づけ、さらにはスケッチの描かれた意図等を解説する展示を補強するガイドツアーを行った(週2回、各回50分、15名程度)。参加希望者が多い場合(20～30名)は、建築関係者とそれ以外の2班に分かれてツアーを行っている。最大で60名の参加があった。

ギャラリートーク：展覧会イベントとして、原広司本人と、原研究室出身の宇野求(昭和29年(1954)–)竹山聖(昭和29年(1954)–)を交えて、展示模型を囲んでディスカッションを行い、その様子を撮影し、館内にてオーラルヒストリーと併せて放映した。

オンラインコンテンツ：オーラルヒストリー動画を再編集し、関係者メッセージや会場の様子を挿し込んだ動画コンテンツとして文化庁 Youtube にアップロードした。

■ メディア掲載

雑誌

- ・美術の窓 2022年12月号 p.101
- ・建築画報 2022年12月号 p.130
- ・日経アーキテクチュア 2023年1月12日号 p.88
- ・建築技術 2023年3月号 p.159
- ・ブレーン 2023年3月号 p.123
- ・新建築 2023年2月号 p.21
- ・毎日新聞 2023年2月22日 夕刊
- ・読売新聞 2023年3月1日 朝刊
- ・新建築 住宅特集 2022年10月号 pp.80–89
- ・朝日新聞 連載「語る——人生の贈りもの 原広司」、1月30日、31日、2月1日、2日、3日、6日、7日、8日、9日、10日、14日、15日、16日、17日付 いずれも朝刊

WEB

FASHION PRESS Padograph TECTURE MAG
architecture photo 新建築オンライン
BUNGA NET JDN COMFORT TOKYO
ART BEAT This is Media

■ 関連業務：資料のデジタル化

図面及びスケッチ資料 どちらも2,000枚程度、計約4,000枚

主に今回展示した作品を選定したが、ほかに相鉄文化会館、武蔵野女子大学グリーンホール、秋田県営住宅新屋団地、鳥羽海の博物館、森工房など、今回未展示の作品もデジタル化を行った。

■ グラフィックサイン図・フライヤー・図録のデザイン
体裁・部数：ポスター /B2縦 400部

チラシ /A4両面 20,000部

図録 /B5横 3,000部+1,000部(増刷)：
増刷分含め、保管用除き全て頒布

■ 来場者数

日数	正門	岩崎邸	計
64日	41日 / 64日	64日 / 64日	—
—	2,840人	8,361人	11,201人
—	25%	75%	—

(3) 展覧会準備

令和5年度に向け、展覧会の企画立案を進めた。令和5年度は、設立10周年を迎えるにあたり、記念特別展として2部構成の展覧会を開催する。以下、現時点での企画概要を掲載する。

文化庁国立近現代建築資料館 [NAMA] 10周年記念
アーカイブズ特別展 日本の近現代建築家たち(仮)

■ 趣旨

文化庁国立近現代建築資料館 (National Archives of Modern Architecture [略称 NAMA]) は、平成24(2012)年11月に設置が決定され、平成25(2013)年5月に開館し、設立10周年を迎える。NAMAは、収集、展示、情報公開という3つの柱で活動を行ってきた。これまでの収集資料群は30を超え、手書き図面を中心として20万点以上の建築資料を収蔵した。設立10周年に際して、NAMAがこれまでに収集した日本の名作近現代建築に関する「生の資料」の大公開を行う。併せて、近現代建築資料館の10年の活動の軌跡を紹介し、建築資料館の活動内容、社会的役割や存在意義を、社会に広めることを目指す。特に、一般の方々(中高生含む)向けの内容を充実させ、社会的認知度を広める。

■ 開催時期

前半：2023年7月下旬～10月中旬、後半：2023年11月上旬～2024年2月上旬

■ 展示対象候補建築家 (カッコ番号はフォンド番号)

1. 坂倉準三 (1) : 1901-1969
2. 丹下健三 (2) : 1913-2005
3. 吉阪隆正 (8) : 1917-1980

4. 大高正人 (10) : 1923-2010
5. 菊竹清訓 (15) : 1928-2011
6. 吉田鉄郎 (18) : 1884-1956
7. 岸田日出刀 (20) : 1899-1966
8. 高橋訥一 (23) : 1924-2016
9. 前川國男 (24) : 1905-1986
10. 原広司 (25) : 1936-
11. 安藤忠雄 (28) : 1941-
12. 大谷幸夫 (32) : 1924-2013

2. 資料提供

(1) 現物 (貸出先：貸出資料 用途)

・令和4年度の現物資料については、貸し出しはなし。

(2) 画像 (貸出先：貸出資料 用途)

- ・団体：丹下マイクロ(今治市市民会館)/展覧会でのパネル展示及び関連書籍への転載『TANGEから建築を学ぶ者への出題 都市のコア——今治市庁舎広場』4点
- ・個人：渡辺仁(晩年の渡辺仁肖像写真他)/学術的調査研究13点
- ・個人：岸田日出刀(1936_BERLIN_OLIMPIC)/学術的調査研究21点
- ・団体：菊竹清訓(石橋文化センター音楽堂他)/所有者による維持管理を目的とした保護活動のための調査9点
- ・個人：大高正人(自動車労連日産労連)/所有者による改修工事のため図面関連1式
- ・団体：坂倉準三(羽島市庁舎関連)/所有者による解体・改修工事のため170点
- ・団体：坂倉準三(羽島市勤労青少年ホーム及び羽島市民会館)/所有者による改修工事のため167点
- ・個人：吉田鉄郎(馬場氏牛邸)/建築討論WEBへの記事掲載のため『日本建築学会内建築討論』2点
- ・団体：吉田鉄郎(映像資料近代——モダニズムと伝統の架け橋のオーラルヒストリー)/有形文化財登録のための企画にて展示放映1点
- ・個人：坂倉準三(国立西洋美術)/会誌への掲載のため『コンクリート工学』2点
- ・企業：坂倉準三(新宿西口広場及び地下駐車場)/出版物への掲載のため『小田急百貨店の展覧会——新宿西口の戦後50年』4点
- ・企業：大高正人(坂出市人工土地)/テレビ朝日にて放映『タモリ倶楽部』1点
- ・企業：坂倉準三(新宿西口駅本屋ビル設計図)/令和3年度放送済のテレビNHKから再放映『すこぶるアがるビル』1点

- ・企業：坂倉準三（新宿西口駅本屋ビル設計図）/ 令和3年度放送済のテレビNHK組から再・再放映『すこぶるアガるビル』1点
- ・個人：吉阪隆正（日仏会館）/ 卒業論文執筆のための研究調査120点
- ・個人：吉阪隆正（三沢邸）/ 所有者による改修工事のため102点
- ・個人：坂倉準三（飯箸邸）/ 所有者による改修工事のため65点
- ・個人：大高正人（広島基町団地基本計立案説明6803他）/ 卒業論文執筆のための研究調査109点
- ・個人：吉阪隆正（アテネ・フランセ施設）/ 卒業論文執筆のための研究調査64点
- ・個人：吉阪隆正（ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館）/ 論文集への掲載『日本建築学会計画系論日本語版』43点
- ・個人：吉阪隆正（野沢温泉ロッジ）/ 所有者による改修工事のため25点
- ・個人：吉阪隆正（ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館）/ 論文集への掲載『日本建築学会計画系論英語版』43点
- ・個人：坂倉準三（札幌冬季オリンピック大倉山ジャンプ場）/ 学術的調査研究49点
- ・団体：大高正人（シンポジウム時の三春町に関する映像）/ 見学会にて放映『日本インテリア学会34回大会』1点
- ・企業：吉阪隆正（近藤邸ヴィラ・クウクウ）/ 雑誌掲載『CasaBRUTUS11月号』1点
- ・企業：大高正人（プロフィール写真）/ ケーブルネット296にて放映『建築遺産』1点
- ・個人：菊竹清訓（アクアポリス）/ 論文集への掲載『日本建築学会計画系論文集』16点
- ・団体：丹下マイクログラフ資料（熱海ガーデン、草月会館他）/ 『丹下健三展——仮称』企画・展示のための調査研究89点
- ・団体：菊竹清訓（久留米商業高等学校講堂他）/ 所有者による維持管理を目的とした保護活動のための調査研究64点
- ・個人：大高正人（広島基町団地及び関連施設）/ 卒業論文執筆のための研究調査218点
- ・個人：坂倉準三（藤山邸）/ ゼミ課題の模型製作のため38点
- ・企業：坂倉準三（小田急新宿西口駅本屋ビル他）/ テレビ東京・BSテレ東にて放映『新美の巨人たち』4点
- ・企業：渡辺仁（晩年の渡辺仁肖像写真）/ NHKBSプレミアム・BS4K他放映『美の壺（天井編）』1点
- ・個人：坂倉準三（大阪府総合青少年野外活動センター）/ 学術調査及び修士論文への掲載94点
- ・企業：吉阪隆正（近藤邸）/ 雑誌掲載『婦人画報「名作住宅を受け継ぐ」2月号』1点
- ・個人：坂倉準三（PADIGILIONE GIAPPONESE 他）/ 卒業模型作成のための研究調査2点
- ・個人：村田豊（日本炭素ビル案 他）/ 修士論文執筆のための調査研究57点
- ・個人：菊竹清訓（スカイハウス）/ 美術館の展示室にて放映『東京都庭園美術館にて大学院による画像放映』2点
- ・個人：坂倉準三（札幌冬季オリンピック大倉山ジャンプ場写真資料）/ 基礎資料としての調査2ファイル
- ・個人：こどもの国（こどもの国児童館配置図 他）/ 学術的調査研究24点
- ・個人：坂倉準三（札幌冬季オリンピック大倉山ジャンプ場写真資料）/ 基礎資料としての調査2ファイル（ネガ含む）/
- ・個人：村田豊（東京都三宅村阿古小・中学校体育館）/ 修士論文への掲載2点
- ・個人：菊竹清訓（千栄禅寺）/ 修士論文への掲載24点
- ・個人：吉阪隆正（吉阪自邸 他）/ 学術論文への掲載192点
- ・企業：坂倉準三（東京日仏学院）/ 雑誌掲載『ダイナースクラブ会員誌「シグネチャー施設改装工事に係る寄付金募集のための施設紹介』2点
- ・個人：こどもの国（こどもの国A地区児童遊園 他）/ 学術的調査研究28点
- ・個人：坂倉準三（ディーゼル博士記念石庭 他）/ 学術的調査研究74点
- ・個人：前川國男（プレモス73号 他）/ 学術的調査52点 うち掲載5点
- ・個人：菊竹清訓（長龍寺）/ 修士論文への掲載5点
- ・個人：大高正人（広島市長寿園団地計画設計図 他）/ 学術論文への掲載『日本建築学会中国支部研究発表会』8点
- ・個人：坂倉準三（塩野義製薬西宮寮 他）/ 学術的調査研究61点
- ・企業：吉阪隆正（近藤邸）/ 雑誌掲載 他『TOTO 通信2023号、カタログ、TOTOのHP』1点
- ・団体：坂倉準三（渋谷再開発計画'66 他）/ 論文掲載『会報誌 DOCOMOMO Japan33号』2点
- ・個人：坂倉準三（岡本太郎邸 他）/ 菊竹清訓（スカイハウス）/ 原広司（原邸）/ 多言語にわたる出版物への掲載『Japanese Houses Since 1945』16点
- ・個人：菊竹清訓（BS久留米第2工場 他）/ 学術的調査研究127点
- ・団体：大高正人（新宿都心計画図）/ 学術的調査研究2点

- ・個人：前川國男（プレモス7号アクソメ図 他）/ 連載記事掲載『建築討論「遺跡としての晴海団地」第2回』4点
- ・個人：渡辺仁（建築略歴書 渡邊高木事務所発行の冊子）/ 学術的調査研究17点
- ・個人：吉阪隆正（浦邸 他）/ 学術論文への掲載15点
- ・個人：こどもの国（こどもの国 A 地区児童遊園 他）/ 学術的調査研究28点
- ・個人：坂倉準三（ディーゼル博士記念石庭 他）/ 学術的調査研究74点
- ・個人：坂倉準三（名神高速道路トールゲート 他）/ 学術的調査研究137点

(3) 資料閲覧及び複写の提供

資料閲覧及び複写の提供実績の概要は、以下のとおりである。

ア. 閲覧実施件数及び閲覧点数の実績

- ・実施件数：33件
- ・閲覧に供した資料点数：10,824点
- ・資料群別の実施件数
- ・坂倉準三建築設計資料：8件
- ・前川國男建築設計資料：3件
- ・吉阪隆正建築設計資料：3件
- ・菊竹清訓建築設計資料：4件
- ・渡辺仁建築設計資料：1件
- ・大高正人建築設計資料：3件
- ・村田豊建築設計資料：3件
- ・岸田日出刀建築設計資料：2件
- ・こどもの国資料料：3件
- ・丹下マイクロ資料：3件

イ. 複写の提供実績

- ・提供件数：1件
- ・提供点数：10点

3. 第4回近現代建築アーカイブズ講習会【中止】

近現代の建築資料を所蔵する組織の学芸担当者等を対象とし、近現代建築資料における収集、整理、保存及び利用等に関する必要な専門的知識と技能の習得を目的として令和元年、2年と開催してきたが、令和3年度と令和4年度は新型コロナウイルス感染症流行状況の予測が困難であったため、開催を中止した。

4. 近現代建築アーカイブズ研修オンライン教材制作

前年度に引き続き、講習会中止の代替手段として、インターネットで公開する研修教材1本（約30分）を制作した。「建築資料の損傷と保存」（コメンテーター：貴田啓

子 東京藝術大学大学院准教授）

建築資料を取り扱うための基礎的な教材として、文化庁公式YouTubeチャンネルbunkachannelにて公開した。

5. 『国立近現代建築資料館紀要』第2号刊行

当館の収蔵資料に関する情報と、館職員や協力者の調査研究成果の公開について、研究論文や資料紹介等を掲載する『国立近現代建築資料館紀要』第2号を令和4年9月にオンラインと印刷（A4判、75ページ）の両方で刊行した。逐次刊行物としてISSNを取得している（ISSN 2436-6757 [オンライン] ISSN 2436-6765 [印刷]）。第1号と併せてJ-Stageに登載し、安定して長期公開を行う体制を整えた。

内容は以下のとおりである。

・論文

火のないところに煙は立たずール・コルビュジエの原画に基づいて制作された東急文化会館の緞帳について— 加藤道夫

上海華興商業銀行綜合社宅（設計：前川國男建築設計事務所）における住戸計画と空間構成— 収蔵資料の分析から得られた知見— 小林克弘

・資料紹介

ヴァスマート氏所蔵吉田鉄郎著作関連資料整理報告 江本弘

村田豊建築設計資料のうち、図面以外の資料について 飛田ちづる

国立近現代建築資料館が所蔵する菊竹清訓設計の日本政府建立戦没者慰霊碑の図面群について 戸田穰、加藤直子

・プロジェクト解説

「丹下健三 1938–1970 戦前からオリンピック・万博まで」展開催記録—アーカイブズ展示の試み— 木下紗耶子

・報告

建築アーカイブズのあり方—令和3年度アーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会）短期コースに参加して— 飛田ちづる

・年次報告

令和3年度国立近現代建築資料館活動報告

6. 収蔵資料検索システムの公開・運用

令和3年6月に公開した収蔵資料検索データベース（<https://db.nama.bunka.go.jp>）を運用している。収蔵する資料群の概要公開（16資料群）、ファイル（図面筒、図面フォルダ等）レベルまでの目録公開（9資料群）、アイ

テム(個別の図面や資料)レベルまでの目録公開(7資料群)、サムネイル画像の公開(一部:3資料群)をしている。データベースサーバの管理は(株)ITフレット・サービスに委託した。

7. 資料のデジタル化

令和2年度から、一貫した仕様でのデジタル化作業をとりまとめ実施している。令和4年度は3,002点(Ⅱ1. 展覧会の関連業務に含む4,138点と併せて7,140点)について、スキャナによる高精細デジタル化を行った。

- 15_ 菊竹清訓資料1,965点
- 23_ 高橋純一・第一工房資料625点
- 28_ 安藤忠雄資料412点
- 25_ 原広司+アトリエ・ファイ建築設計資料4,138点(Ⅱ1. 展覧会の関連業務)

Ⅲ. 情報収集

1. オーラルヒストリー

「原広司 建築に何が可能か—有孔体と浮遊の思想の55年—」展

本展覧会の開催にあたり、原広司(昭和11年(1936)→)に3時間に渡るインタビューを行い、編集版を展覧会場にて公開した。オーラルヒストリー2本の他、展覧会イベントとしてゲスト(前述)を招きギャラリートークを行い、収録、放映した。

(1) 原広司オーラルヒストリー①

「有孔体と浮遊の思想」

収録日: 令和3年11月7日

収録対象: 原広司

聞き手: 小林克弘(当館企画主任)

記録時間: 約10分

収録場所: アトリエφ

展覧会タイトルにも使用し、原氏の建築理論の始まりであり、一貫して制作活動を行っている「有孔体」並びに「浮遊の思想」についてインタビューを行った。

(2) 原広司オーラルヒストリー②

「生い立ち、そして建築理念」

収録日: 令和3年11月7日

収録対象: 原広司

聞き手: 小林克弘(当館企画主任)

記録時間: 約17分

収録場所: アトリエφ

以下4つのテーマについて原氏にお話をいただいた。

【生い立ち】空襲の2日前に母親の実家のある長野・飯田市へ疎開する。食べるものに本当に苦勞し、なぜ生きているのかを問うようになる。生きるということに対して本気に考えるようになったのは、敗戦した日本を体験したことに起因する。

【集落調査】東京大学原研究室にて集落調査に着手する。1970年の万博開催への勢いの傍ら、環境問題、公害があらわになり、原氏自身が自然的な建築に興味を持ち、集落調査が始まった。それまで集落が建築史に出てくることはなかったが、継続して調査を行うことを決意、自然と共存してきた建築は公害を生むことなく、環境について考えていこうという問いかけは多くの支持を得ることになる。

【トポロジー】原氏の建築理論で度々出てくる「トポロジー」。動きを捉える数学理論としてホモトープを上げ、浮遊の思想へ転換されてゆく。このホモトープ概念によって、浮遊の思想を建築化する経路を生み出していった。

【建築理念】建築だけではなく社会全体が「お金」を基準とした概念で回り、目指すべき理想、つまり理念が欠如していることを指摘する。ニヒリズムのような自虐的風潮に押されている現代、原は「建築は希望」と訴える。自由と平等という理念のもと、建築は形而上的であり、なぜ私たちは生きているのかという答えを探し続け、建築として答えようとしている。あいまいな部分があってこそ「人間的」であり、建築におけるの悟りを模索し続けている。

Ⅳ. 調査研究等

我が国の近現代建築に関わる構造資料及びその電子化継承に関する調査

ワーキンググループ委員

主査: 竹内徹(日本構造家倶楽部)

委員: 伊藤潤一郎(日本構造家倶楽部)、佐々木睦朗(日本構造家倶楽部)、金田勝徳(日本構造家倶楽部)、金箱温春(日本構造家倶楽部)、多田脩二(日本構造家倶楽部)、原田公明(日本構造家倶楽部)、満田衛資(日本構造家倶楽部)、森部康司(日本構造家倶楽部)、小澤雄樹(芝浦工業大学)、川口健一(東京大学)、安藤頭祐(日建設計)、浜田英明(法政大学)、藤本貴子(法政大学)

顧問: 難波和彦・加藤道夫(近現代建築資料館、～2022.9)、大宮司勝弘(近現代建築資料館、2022.11～)、青山(高瀬)道乃(近現代建築資料館)

1. 調査の背景と目的

18世紀の産業革命以降、鉄やコンクリート等の新しい構造材料が現れると、従来の伝統構造をベースに設計を行ってきた建築家とは別にこれらの材料を駆使した建造物を実現する構造エンジニアという職能が成立するようになった。その後、素材や技術の発展に沿って新しい構法を編み出し、建築家と協働しながら建築を構面から設計する構造エンジニア（構造設計者、構造家）という職能が確立していった。

我が国における構造技術分野の専門化は1923年の関東大震災を契機に耐震構造を中心に進んだ一方で、戦後様々な材料を駆使し多様な構造デザインを実現する欧米型の構造家が活躍するようになった。しかし我が国の近現代建築に関わる構造資料は、これまでに概要把握のための網羅的な調査が行われたことがなく、散逸や滅失の危機にさらされているものもあると推定される。そこで平成29年度～31年度には功績の顕著であった戦後～1990年代に活躍した22名の構造家を抽出して各人に関する本格的な調査及び資料の整理を実施し、その調査結果を「我が国の近現代建築に関わる構造資料の概要把握調査方法の提案」として取りまとめた。

一方、1990年以降の構造資料においては電子化が一段と進んでおり、より後代の構造資料継承に関してはその対応も喫緊の課題となってきている。特に知的財産権の運用厳格化やデジタルデータのインターネットを通じた拡散性の増大により、構造家がまだ存命の内に没後の所有権の移管や公開の是非についての意思を記録しておくこと、また、電子化を視野に入れた残すべき資料の種類や移管書式の整備等について、当該構造家や法律家を交えてまとめていくことが早急に求められる。構造資料以外の分野でも21世紀以降、設計情報の電子化が進んでおり、これ等の情報をいかにアーカイブとして構築し、継承するかの方策を見いだすことは近現代建築資料館の課題である。したがって、電子化において先行する構造資料の調査は、今後、近現代建築資料館が建築に関わる他の電子情報をいかに継承していくかについての収集方針策定においても貴重な資料となると考えられる。本年度は、複数の存命構造家のデジタル資料について調査した昨年度の成果をふまえつつ、デジタル・アーカイブ構築のための具体的な手法及び課題を技術的側面、法的側面より検討し、ネットワーク化を含む構造資料の電子化継承に関わる方法論についての具体的検討を行った。

2. 調査方法の概要

令和4年度の調査は以下の手順で進めた。(1)これまでの構造資料所在調査をもとに、欠落した情報を補完しつつ、存命及び最近逝去された構造家を対象とする代表的な建築物、構造解析方法、構法と、その施工法リストを作成する。(2) (1)をもとに本年度の調査対象とすべき複数の構造家を選定する。(3)抽出した構造家の資料保存状況（デジタルデータ保管状況を含む）について、概略を調査し、電子化資料整理の実践を行う。(4)資料管理マニュアル及び、構造家の資料継承のために必要となる、構造家没後の著作権・所有権の移管や公開の是非についての意思確認に関わるフォーマットを検討する。(5)構造資料継承に関わる啓蒙活動の企画を行う。

3. 本年度の調査結果

- 3-1：構造作品年表（1868～2019）及びその系譜
- 3-2：調査した構造家の資料概要（1）川口衛（2）渡辺邦夫（3）新谷真人（4）斎藤公男（5）佐々木睦朗
- 3-3：構造家資料の管理・継承方法の提案（1）構造家資料におけるデジタル資料管理マニュアル（2）譲渡契約書（案）及び継承方針シート（3）構造資料継承に関わる啓蒙活動の企画

第1回

日時：2022年7月5日（水）18時00分～19時30分

場所：オンライン開催

打合せ内容：前年度報告書の内容について説明を行い、今年度への持ち送り事項などの確認をした。今年度の実施体制及び業務計画について近現代建築資料館より説明がなされた。今年度の調査対象（渡辺邦夫、川口衛、新谷真人、佐々木睦朗、斎藤公男）の状況について確認し、意見交換を行い、以下について合意に至った。1)今年度は取りまとめの年度であり、3月前に報告書を取りまとめる必要あり。2)デジタルアーカイブのためのマニュアルを整備し、共有ストレージ上での整理を行う（非公開）。3)公開可能な情報及び資料リストを抽出し、対象となる構造家の業績シートを報告書として取りまとめる。デジタルデータのアーカイブマニュアル、スケッチや写真などの「著作物」の所有権やCopyrightを後進に託すための書式、構造家の業績をまとめるための報告書フォーマットを7月末までに全委員に送付。5)それに従い、渡辺邦夫、新谷真人、佐々木睦朗、斎藤公男のデジタルデータの整理を実施しストレージにアップし、報告書用業

績シートを作成する。6) 次回、成果を持ち寄り協議する。

第2回

日時：2022年9月29日(木) 16時00分～17時30分
場所：対面(法政大学市ヶ谷田町校舎)／オンライン併用
打合せ内容：前回議事録の確認。前回の議事録の内容について説明を行い、確認を行った。シート作成状況の報告、今年度の調査対象(渡辺邦夫、川口衛、新谷真人、佐々木睦朗、斎藤公男)の調査状況について確認し、意見交換を行った。

第3回

日時：2022年12月15日(木) 17時00分～19時00分
場所：対面(法政大学市ヶ谷田町校舎)／オンライン併用
打合せ内容：前回議事録の確認。前回の議事録の内容について説明を行い、確認を行った。シート作成状況の報告。今年度の調査対象(渡辺邦夫、川口衛、新谷真人、佐々木睦朗、斎藤公男)の調査状況について確認し、意見交換を行った。

第4回

日時：2023年3月20日(月) 17時00分～19時00分
場所：対面(法政大学市ヶ谷田町校舎)／オンライン併用
打合せ内容：前回議事録の確認。前回の議事録の内容について説明を行い、確認を行った。令和4年度報告書案の確認。今年度の報告書案について確認し、意見交換を行った。

構造家資料の継承に関する助言

日時：2022年12月8日(水) 10時00分～12時00分
場所：オンライン開催
講師：桑野雄一郎／くわのゆういちろう(高樹町法律事務所)
内容：桑野氏から贈与契約書及び所有権、著作権について解説があった。また継承方針シートの効力、著作者人格権について解説があった。

V. 委員会

1. 運営委員会

令和4年度委員

(◎は委員長、○は委員長代理、五十音順 敬称略)
大村理恵子(パナソニック汐留美術館主任学芸員)、
○加藤雅久(居住技術研究所主宰)、◎川向正人(東京理科大学名誉教授)、隈研吾(東京大学特別教授・名誉教授)、児玉耕二(日本建築士事務所協会連合会会長)、田路貴浩(京都大学大学院教授)、山名善之(東京理科大学教授)

開催状況

第20回：令和4年8月3日 ※Web会議

〔主な議題〕

- ・資料の受入について
 - ①樋口清旧蔵吉田鉄郎蔵書 LE CORBUSIER-SAUGNIER, *Vers une architecture* (初版)
 - ②堀口捨己建築資料
- ・展覧会の開催について
令和5年度(2023年度)展覧会企画(案)

第21回：令和5年1月24～30日 ※書面審議

〔主な議題〕

- ・資料の受入について
大谷幸夫建築資料

第22回：令和5年3月13日 ※Web会議

〔主な議題〕

- ・資料の受入について
 - ①堀口捨己建築資料
 - ②藤森照信旧蔵東京大学生産技術研究所建築史研究資料(仮)
- ・展覧会の開催について
令和5(2023)年度展覧会企画
「文化庁国立近現代建築資料館10周年記念特別展 日本の近現代建築——NAMA コレクション大公開」(仮)
- ・今後の事業計画について

2. 小委員会

(1) 収集小委員会 ※Web会議

令和4年度委員(◎は委員長、五十音順 敬称略)

加藤諭(東北大学准教授)、◎加藤雅久(居住技術研究所主宰)、角田真弓(東京大学技術専門職員)、藤木竜也(千葉工業大学准教授)、山崎幹泰(金沢工業大学教授)

開催状況

第17回：令和5年3月3日 ※Web会議

〔主な議題〕

- ・資料の受入れについて
 - ①堀口捨己建築設計資料
 - ②藤森照信旧蔵東京大学生産技術研究所建築史研究資料

(2) 企画小委員会

令和4年度委員(◎は委員長、五十音順 敬称略)

大村理恵子(パナソニック汐留美術館主任学芸員)、鈴木明(武蔵野美術大学教授)、◎田路貴浩(京都大学大学院教授)、前田尚武(京都市京セラ美術館企画)

推進ディレクター)、米山勇(東京都江戸東京博物館
研究員)

開催状況

第17回: 令和5年2月2日

[主な議題]

- ・令和5年度 10周年記念特別展(案)

(3) 情報小委員会

令和4年度委員(◎は委員長、五十音順 敬称略)

後藤真(国立歴史民俗博物館准教授)、齋藤歩(京大
大学総合博物館特定助教)、永崎研宣(人文情報学研
究所主席研究員)、本間友(慶應義塾ミュージアム・
commons専任講師)、森本祥子(東京大学文書館准教
授)、◎山名善之(東京理科大学教授)

開催状況

第13回: 令和5年3月6日

[主な議題] ※報告事項のみ

VI. 運営

1. 施設の充実

特段の記載事項なし。

2. 広報・広聴

(1) 資料館ウェブサイト

ウェブサイトの保守管理を(株)ナカヨに委託して運
用した。館の概要、閲覧等利用の案内、展覧会の開催、
開館・閉館の予定等を告知するとともに、刊行物のデ
ジタルファイル等を掲載した。

(2) 文京ミュージズフェスタ2022

令和4年12月15日(木)にギャラリーシビック(文
京シビックセンター1階)にて開催された「文京ミュー
ズフェスタ2022」(主催:文京区、文の京ミュージアム
ネットワーク)に参加した。開催中の「原広司 建築に何
が可能かー有孔体と浮遊の思想の55年ー」のポスター、
チラシ及びパネル等を掲示し、区民ら来場者に広報を
行った。

(3) アンケート調査

「令和4年度収蔵品展こどもの国のデザイン——自
然・未来・メボリズム建築[併設]新規収蔵資料紹介」
、「原広司 建築に何が可能かー有孔体と浮遊の思想の
55年ー」の来館者に対して、展覧会の評価等に関する
アンケート調査(任意)を実施した。

VII. 予算

令和4年度予算額 106,857千円

VIII. 組織

令和4年度職員名簿

館長(文化庁企画調整課長)	平山 直子 (R4.6.9まで)
館長(文化庁企画調整課長)	寺本 恒昌 (R4.6.10から)
館長補佐(企画調整課課長補佐)	伊野 哲也
副館長	吉野 孝行

【研究系】

主任建築資料調査官(収集担当)	加藤 道夫 (R4.9.30まで)
主任建築資料調査官(収集担当)	大宮司 勝弘 (R4.11.1から)
主任建築資料調査官(企画担当)	小林 克弘
主任建築資料調査官(情報担当)	田良島 哲
研究補佐員	寺内 朋子
研究補佐員	青山(高瀬) 道乃
研究補佐員	小池 周子
研究補佐員	木下 紗耶子 (R4.5.31まで)
研究補佐員	門間 光 (R4.7.1から)
研究補佐員	王 聖美 (R4.9.16から)

【事務系】

事務室長	吉野 孝行 ※副館長兼務
専門職	小林 美緒
専門職	吉野 貴子 ※再任用
事務補佐員	酒口 ひろみ
事務補佐員	室田 恵実

IX. 年譜

令和4(2022)年

6月

寺本恒昌館長(文化庁企画調整課長)就任(10日)

「令和4年度収蔵品展こどもの国のデザイン——自

然・未来・メタポリズム建築 [併設] 新規収蔵資料
紹介 (21日～8月28日)

8月

「篠井家旧蔵吉田鉄郎城端郵便局」贈与契約締結 (1
日) 国立近現代建築資料館運営委員会 (第20回)
(3日)

9月

「安藤忠雄初期建築資料令和4年度」贈与契約締結
(13日)
「高橋訖一資料2022年度」贈与契約締結 (14日)

10月

「シュパイデル旧蔵ブルーノ・タウト関連資料」贈与
契約締結 (24日)

11月

「樋口清旧蔵吉田鉄郎蔵書 LE CORBUSIER-
SOUIGNIER, *Ver une architecture* (初版)」贈与契約
締結 (8日)

12月

「原広司 建築に何が可能か ―有孔体と浮遊の思想の
55年―」 (13日～令和5年3月5日)

令和5(2023)年

1月

国立近現代建築資料館運営委員会 (第21回) (24～
30日) ※書面審議

2月

国立近現代建築資料館運営委員会企画小委員会 (第
17回) (2日) ※Web会議

3月

国立近現代建築資料館運営委員会収集小委員会 (第
18回) (3日) ※Web会議

国立近現代建築資料館運営委員会情報小委員会 (第
13回) (6日) ※Web会議

国立近現代建築資料館運営委員会 (第22回) (13日)
※Web会議